



報道関係者各位
プレスリリース

2013年4月9日
ハイアット ホテルズ アンド リゾーツ

**フランスの主要ビジネス・観光都市のパリ、カンヌ、ニースで
新たに4ホテルの運営を開始**

～フランスでの事業を拡大し、世界中の旅行者に選ばれるトップブランドへ～

ハイアット ホテルズ コーポレーションは、ルクセンブルクのコンステレイション・ホテルズ・ホールディングスの関連会社と運営受委託契約を締結し、パリ、ニース、カンヌにある既存4ホテル(ホテル デュ ルーヴル、ホテル コンコルド ラ・ファイエット、ホテル マルティネス、パレ・ド・ラ・メディテラネ)をハイアットホテルにブランド転換し、今月4月9日より順次ハイアットホテルとして営業いたします。これはフランス国内のゲートウェイシティにハイアットのプレゼンスを確立する長期的戦略の一環で、今回の締結により、既にハイアットホテルとして運営している3ホテル(パーク ハイアット パリ-ヴァンドーム、ハイアット パリ マドレーヌ、ハイアット リージェンシー パリ-シャルルドゴール)を含め、計7ホテルに拡大することになります。ハイアットにブランド転換されるホテル名と営業開始日は以下の通りです。

<u>旧ホテル名</u>	<u>新ホテル名</u>	<u>営業開始日</u>
ホテル マルティネス	グランド ハイアット カンヌ ホテル マルティネス	4月9日
ホテル デュ ルーヴル	ホテル デュ ルーヴル(後にアンダーズ パリ)	4月17日
パレ・ド・ラ・メディテラネ	ハイアット リージェンシー ニース パレ・ド・ラ・メディテラネ	4月23日
ホテル コンコルド ラ・ファイエット	ハイアット リージェンシー パリ エトワール	4月24日

ハイアットでヨーロッパ・アフリカ・中東・西南アジア地区グループプレジデントを務めるピーター・フルトンは、「私共ハイアットは、お客様が訪れる主要ビジネスおよび観光地に、戦略的にハイアットの事業展開を図ります。パリとカンヌはフランスを代表する二大観光・ビジネス都市で、ニースは年間400万人が訪れる世界でも観光需要の高いリゾート地です。新たにハイアットグループに加わるこの4ホテルは、最高のホスピタリティを提供してきた実績がありますが、今後は我々の豊富な経験や専門知識、グローバルな予約システムや会員組織のネットワークなどを提供することで、より一際存在感を放つホテルへと進化を遂げることでしょう。またハイアットにとって、今回の発表はフランス国内でハイアットの存在価値を高める絶好の機会になると確信しています。」と、述べています。

ハイアットでヨーロッパ・アフリカ・中東地区不動産開発担当シニア・ヴァイス・プレジデントを務めるピーター・ノーマンは、「ヨーロッパでハイアットの需要は非常に高く、一度に参入障壁の高いパリ、ニース、カンヌの3都市にハイアットブランドを拡大することができることを嬉しく思います。パリ観光局によると、パリはヨーロッパ大陸最大のホテルマーケットだそうです。これを機に、更にヨーロッパ全土にハイアットのプレゼンスを拡大したいと考えております。」と、コメントしています。

コンステレイション・ホテルズ・ホールディングで共同最高経営責任者を務めるザキ・エル・ガイジリ氏は、「ハイアットは最高のホスピタリティを提供する業界トップ企業として広く認知されています。世界的有数のホテル運営会社としての専門知識や緻密なグローバル戦略、そしてその高いブランド力で、更に大きな価値をもたらしてくれることを期待しております。」と、語っています。

各ホテルの概要は以下の通りです。ウェブサイトは営業開始日よりご覧いただけます。



グランド ハイアット カヌ ホテル マルティネス (旧ホテル マルティネス)

カンヌ湾沿いに走るクロワゼット通りのランドマーク的な存在。1920年代に建設されたアールデコ様式の美しいホテル施設内には、409の客室、カンヌで唯一ミシュラン2つ星を獲得したレストラン、市内最大級の広さを誇る約1800平米のカンファレンス・宴会施設、そしてプライベートビーチがあります。

Website: cannsmartinez.grand.hyatt.com



ホテル デュルーヴル

1855年に開業した5つ星のブティックホテル。隣はヨーロッパ屈指の美術館「ルーヴル美術館」、周りに有名ブランドが立ち並ぶサントノレ通りや観光名所のパレ・ロワイヤルやコメディ・フランセーズがあり、年中世界中の観光客で賑わうエリアにあります。客室数は177室。改装工事を経て、数年後にフランス初のアンダーズ(Andaz)として生まれ変わります。

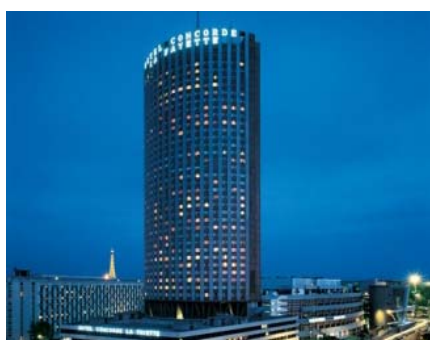
Website: parishoteldulouvre.hyatt.com



ハイアットリージェンシー ニース パレ・ド・ラ・メディテラネ (旧パレ・ド・ラ・メディテラネ)

海岸沿いに延びるプロムナード・デ・ザングレで、アールデコ様式のファサードが一際目を引くホテル。客室数はスイート12室を含む188室。殆どの客室には美しい湾を見渡せるテラスが備わっています。カンファレンス&バンケット施設は約1800平米で市内で最大級の広さを誇ります。ホテル周辺には、ニースの旧市街、ポーザール美術館、マチス美術館、ニース・オペラ座、現代近代美術館などがあり、観光に便利なロケーションです。

Website: nice.regency.hyatt.com



ハイアットリージェンシー パリ エトワール (旧ホテル コンコルドラ・ファイエット)

パリ17区から市内全体を一望する35階建ての5つ星ホテル。ゲストルーム950室と3500平米のカンファレンス施設を擁し、年間約120のカンファレンスが開催されるヨーロッパ最大の国際会議場「パレ・デ・コングレ」に直結する唯一のホテルです。パリのビジネス街ラ・ディファンスと、観光名所のシャンゼリゼ大通りや凱旋門へも徒歩圏内で、ビジネスとレジャーの両方に最適なロケーションです。

Website: parisetoile.regency.hyatt.com

■Hyatt Hotels Corporation について

ハイアット ホテルズ コーポレーション(本社: 米国イリノイ州シカゴ)は、ハイアットが誇る洗練されたおもてなしと心地よい寛ぎを提供する、世界有数のホスピタリティ企業です。世界各地で働くハイアットスタッフ一人ひとりが、お客様の人生に感動と輝きをもたらす本物のホスピタリティを提供しています。現在、世界中でパークハイアット、アンダーズ、グランド ハイアット、ハイアット、ハイアット リージェンシー、ハイアット プレイス、ハイアット ハウスのホテルブランドを管理、所有、開発、フランチャイズ経営しています。また、ハイアット ホテルズ コーポレーションの傘下には、ハイアット レジデンスとハイアット レジデンス クラブを展開、運営、販売またはライセンス契約するハイアット レジデンシャル グループ, Inc があります。2012年12月31日現在、ハイアット ホテルズ コーポレーションのポートフォリオは世界 46ヶ国で 500 施設です。詳しくは <http://www.hyatt.com> (英語)をご覧ください。

■将来予測に関する記述について

本プレスリリースに含まれる記述で歴史的事実でないものは、1995 年米国私募証券訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act of 1995)が定める「将来予測に関する記述」(Forward-Looking Statement)に該当します。かかる記述は、当社の計画、戦略、財務実績、将来見通しもしくは将来事象に関する記述を含み、また予測困難な既知もしくは未知のリスクに関わります。このため、当社の実際の成果や業績は、将来予測に関する記述に明示または暗示されている内容と大きく異なる場合があります。かかる記述の文中にある「かもしれない(may)」、「可能性がある(could)」、「期待する(expect)」、「意向である(intend)」、「計画している(plan)」、「求める(seek)」、「予想する(anticipate)」、「考えている(believe)」、「予測する(estimate)」、「予想する(predict)」、「潜在的(potential)」、「続ける(continue)」、「あり得る(likely)」、「するつもりである(will)」、「するかもしれない(would)」その他これらに類する単語や類似の表現、又はその否定形の使用によって、当該文章が「将来予測に関する記述」であると判断できることがあります。「将来予測に関する記述」は、当社及び当社の経営陣によってその内容が妥当であると判断されていながらも、必然的に不確かな性質の予測及び前提に基づくものです。現在の期待と実際の結果との間に大きな相違をもたらしうる要因としては、現在の景気低迷の落ち込み度合いとその継続期間、当事業や旅行・レジャー業界における消費水準と顧客の信頼、客室稼働率や平均宿泊料金の低下、将来起こり得るテロ攻撃などの敵対行為や旅行に影響を及ぼす敵対行為発生の恐れ、旅行関連の事故、当社顧客の嗜好や選好の変化、提携業者や労働組合との関係、労働法の改正、他の資産所有者、フランチャイズ加盟者もしくはホスピタリティ事業パートナー等の財務状況及びこれら当事者と当社との関係、将来的な買収及び処分並びに新たなブランドコンセプト導入に伴うリスク、当社が事業を行う業界や市場における競争環境の変化、法的手続の結果、連邦・州・地域または外国の税法の改正、為替相場の変動、資本市場の一般的な価格変動や当社の資本市場へのアクセス力等々が含まれます。かかるリスク及び不確定要素については、米国証券取引委員会に提出されている各種報告書(書式 10-K による年次報告書を含む)において、より完全に記載されています。本プレスリリースの配信日現在において発表された将来予測に関する記述に過度に依拠されることのないようご注意ください。当社は、適用法令によって義務付けられる場合を除き、実際の結果、新たな情報、将来の事象、前提条件の変化、その他将来予測に関する記述に影響を及ぼす要素の変化を、かかる記述に反映させるように将来予測に関する記述を公的に更新する義務を負いません。仮に、当社が将来予測に関する記述の 1 つまたは複数について更新した場合であっても、そのことから、その後、かかる記述又は他の将来予測に関する記述に関してさらなる更新がなされることを意味するものではありません。

本件に関するお問い合わせ先

ハイアット ホテルズ アンド リゾーツ
コーポレート コミュニケーションズ 仲松

TEL: 03 3222 4088 (直通) FAX: 03 3222 0390 Email: yoko.nakamatsu@hyatt.com